

伊吹山入山協力金の導入について

1 制度導入の背景

(1)伊吹山の現状と課題

伊吹山の美しい自然環境を守り、快適で安全に登山を楽しんでいただくため、県、市では、お花畑、登山道、公衆便所などの維持管理を行っています。

しかし、近年の登山ブームによるオーバーユースや、ニホンジカ等の食害被害により、これまでに経験してこなかった新たな課題に直面しています。

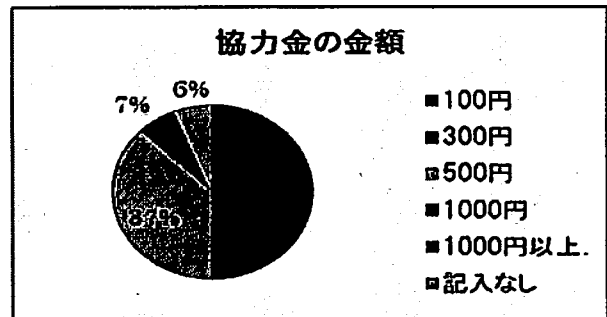
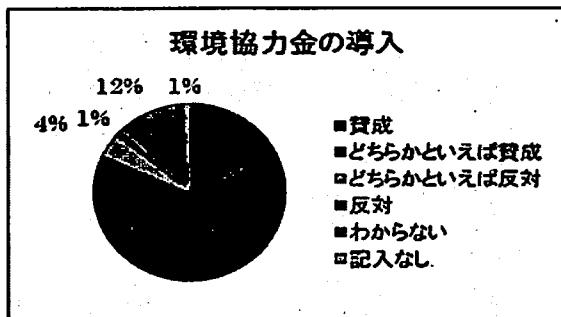
【新たな課題】

- ・近年の入山者数の増加や、異常気象による集中豪雨により、登山道の荒廃が進んでいます。
- ・公衆便所等の施設の経年劣化により、大規模改修工事が必要となります。
- ・低木やススキ、単純な植物群落の拡大繁茂により、多種多様な山地草原種への影響が生じています。
- ・ニホンジカ等の増加により、ニッコウキスゲやユウスゲなどの貴重植物が被害に遭っています。

(2)制度導入に関するアンケート結果

【調査日】 平成25年8月3日(土)、9日(金)

【対象人数】 ・伊吹山山頂 285人
 ・伊吹山山麓 432人 } 計 717人



※アンケート調査の結果、制度導入について8割以上の方が「賛成」または「どちらかといえば賛成」、また、協力金額は、300～500円が約7割との回答がありました。

2 制度導入の目的

協議会では、次の理由により、制度の導入について検討しています。

(1)植生回復事業の拡大

ニホンジカ等による食害や、入山者増加に伴うお花畑への踏み込みも深刻なことから植生回復を行う。

(2)持続可能な維持管理システムの構築

自立したシステムを構築することで持続可能な維持管理の実現。

(公衆便所、登山道等)

(3)入山者の環境意識の向上

(4)入山者へのより質の高いサービスの提供



純群落化が進むアカソ群落



大規模修繕が必要な山頂公衆便所

3 入山者の状況

(1)伊吹山ドライブウェイ利用者数

	H24		H25	
	全営業日	休日の晴れ	全営業日	休日の晴れ
利用者数	約 250,000 人	約 137,500 人	約 250,000 人	約 170,000 人

(2)表登山道利用者数

年間入山者数	4月～11月	休日の晴れ
	約 50,000 人	約 30,000 人

4 収受金額及び使途計画(案)

(1)国内の事例を参考に、今回収受するのはあくまでも「協力金」という形で、強制力は持たない性質のものとします。収受金額については、国内の事例やアンケート結果を参考に、300円とします。

	対象人数		協力金 単価(B)	収受率 (C)	収受見込額 (A)×(B)×(C)=
	総入山者数	休日の晴れ(A)			
伊吹山ドライブウェイ側	250,000 人	150,000 人	300 円	60%	27,000,000 円
表登山道側	50,000 人	30,000 人			5,400,000 円
合計	300,000 人	180,000 人			32,400,000 円

(2)使途計画の概要は次のとおりです。

			(単位:千円)
			将来計画
	経費	これまで	
1	公衆便所維持管理経費	3,000	4,000
2	お花畑維持管理経費	2,500	9,400
3	登山道維持管理経費	2,000	3,000
4	協力金収受業務経費	0	7,000
5	普及啓発・パトロール経費	0	9,000
	合計	7,500	32,400

5 運営方法

- 【運営主体】 伊吹山自然再生協議会
- 【事務局】 滋賀県自然環境保全課・米原市環境保全課
- 【会計事務】 米原市環境保全課

6 今後のスケジュール

- 【試験運用】 平成 26 年5月開始
- 【本格実施】 平成 27 年4月開始